

蜂須賀 信明 議員 (主な答弁者・・・福祉健康部長)
第4次刈谷市地域福祉計画の課題を反映した次計画の策定を!!
 —課題の整理と分析を行った上で、次期計画の策定を行っていく—

問 第4次刈谷市地域福祉計画の基本的な考え方は。

答 年齢や性別、障害の有無、国籍などにかかわらず、全ての人が健康で文化的な社会生活を送ることができる地域社会の形成と、住民の幅広い参画を得ながら共に支え合う地域共生社会の実現を目指している。

問 計画期間が残り1年となく、第5次計画の策定に当たっては何か課題と考えるか。

答 地域住民が抱える課題は複合化・複雑化しており、複数の分野にまたがり、制度のほどこまにあるようなケースも増えている。住民参加型の会議や各団体へのヒアリング調査などを通じて、課題の整理と分析を行って次期計画を策定したいと考える。

稲垣 雅弘 議員 (主な答弁者・・・産業環境部長)
農業分野における課題への対応を!!
 —農業者の意見や要望を伺い、農業施策に反映させていきたい—

問 農業を取り巻く環境として、世界情勢による資材・肥料・電気・燃料等の高騰のほか、担い手の高齢化、後継者不足などは否めない。市の現状と課題認識、目指す農業振興地域像は。

答 本市の課題は、全国的な課題と同様である。農業振興地域整備計画において、農用地区域内の農地転用等を制限し、優良農地の維持保全を図っている。今後も農業生産基盤の整備など持続的な食料システムの構築を目指し、農業振興に努めていく。

問 農業経営の安定化、人材育成の現状は。



先進機材の導入支援等を行い持続可能な農業の振興を図る

森島 公祐 議員 (主な答弁者・・・総務部長)
市民サービス向上のために、市役所の正規職員の増員を!!
 —必要に応じた適切な配置に努めていく—

問 正規職員の定数は。また、正規職員を増やす余地はどれくらいあるのか。

答 刈谷市職員定数条例により、定数は1250人と定められている。令和5年4月1日現在、1208人から育休取得中の職員や他団体等へ派遣している職員等を除いた定数管理上の職員数は1094人であり、上限まで156人の差がある状況となっている。

問 1年間に9人の正規職員の増員を5年間継続して、市役所45課に1人ずつ追加してほしいと考えるが、市の見解は。

答 各課等の業務量や時間外勤務の実施状況等を踏まえ、必要に応じた適切な配置に努めていく。

谷口 睦生 議員 (主な答弁者・・・福祉健康部長)
市民の身近な場所に24時間対応AEDの設置拡充を!!
 —コンビニや集合住宅への設置について調査研究していく—

問 公共施設での24時間対応AEDの拡充についての見解は。

答 24時間対応のAEDの拡充は、各施設で管理状況が異なるので必要性や設置場所について各施設管理者で検討する。

問 24時間対応のコンビニへの設置、また、市営住宅、民間マンションなど集合住宅への設置補助についての考えは。

答 コンビニや身近な集合住宅にAEDを設置することは、市民の安心につながり、適切な使用の促進により、さらなる救命率の向上につながる。しかし、機器メンテナンスに係る経費や機器に異常があった場合の対応など課題もある。今後、設置の必要性や近隣の取組状況などについて調査研究していく。

武藤 美智代 議員 (主な答弁者・・・次世代育成部長)
産後うつや虐待を防ぎ妊産婦に対する在宅での産後ケアの充実を!!
 —より良い支援の提供のため国等の取組状況を調査研究していく—

問 産後うつは10人に1人がかかると言われ、心身の不調の中、支援や協力を得られず1人で抱え相談できない人もいます。現在、市は切れ目のない子育て支援を行っているが、子育て相談と家事支援は別々で対応している。家事や育児支援をトータルでサポートできる産後ドゥーラの活用は有効と考えるが、市の活用は有効と考えるが、市

答 産後うつは10人に1人がかかると言われ、心身の不調の中、支援や協力を得られず1人で抱え相談できない人もいます。現在、市は切れ目のない子育て支援を行っているが、子育て相談と家事支援は別々で対応している。家事や育児支援をトータルでサポートできる産後ドゥーラの活用は有効と考えるが、市

外山 鉦一 議員 (主な答弁者・・・都市公園部長)
お堀池浄化は亀城公園の魅力高める第一歩!!
 —浄化を早期に進め、亀城公園が有する価値を高める—

問 昔から、市民にとって桜見と言えば桜と城址とお堀の三要素を備えた亀城公園であり市民に最も親しまれている。最近、お堀の池は汚いとの声が聞こえてくる。水質改善の検討は。

答 亀城公園は本市を代表する総合公園であり、良好な環境を維持していくために取り組むべき課題と認識している。亀城

問 お堀池の川面にぼんやりと映る桜や朱橋に集まる鯉の群れは、おぼろげに見える。池の透明性を高める施策が最優先と考えるが、浄化を始める時期は。

答 比較検討の結果を踏まえ、できる限り早く取り組む。

鈴木 絹男 議員 (主な答弁者・・・市長)
経済対策や市民の生活向上対策をどう打ち出していくのか!!
 —各種支援の取組をバランスよく実施していきたい—

問 市街地調整区域や佐佐美工業団地等の土地利用・開発、上重原野田線及び元刈谷重原線、

までの医療費無料化、学校給食費無償化や子育てサービスの充実、少子化対策としての結婚の促進政策、キャッシュレス決済ポイント還元事業等のデジタル化推進と情報弱者対策、税の市民還元、物価高騰対策など、これら将来を見据えた各種政策についての市の考えは。

答 適時適切な判断の中で、ハード事業、ソフト事業ともにバランスをとって、市民の皆様、議会の皆様の意見を聞きながら事業を展開していく。

佐原 充恭 議員 (主な答弁者・・・都市公園部長)
屋内で遊び学べる施設とインクルーシブ遊具の設置を!!
 —設置場所や規模等を踏まえて検討していく—

問 近年、夏場に屋外で遊ぶリスクがますます高まる中、近隣市では屋内遊具施設が増えてきている。本市は屋内遊具施設の必要性についてどう考えるか。

答 市民公園づくり会議やアンケートにおいても、ニーズは高いと認識している。公園内での設置については、自然やオープンスペースとしての機能を損なうことがないよう検討していく必要がある。

問 障がいのある無や年齢にかかわらず誰もが楽しめるインクルーシブ遊具の導入状況は。

答 ミササガパークの再整備において設置を予定している。今後も新たな公園整備等の際、ニーズに合わせて導入を検討していく。

編集後記
かけはし

◆新しい年が明けて初めての議会だよりです。本年は辰年ですが、十干十二支でいうと、「甲辰(きのえたつ)」を指します。「甲」は十干の始まりで、生命・物事の始まりを指し、草木が成長し勢いを増す様子を、「辰」は万物が成長し動きが盛んになる様子を象徴するといわれています。このことから、甲辰は、上昇し勢いを増しながら成長していくことを指すのとことです。皆様もぜひとも新しいことに挑戦していただき、自らの成長に結びつけていただきたいと思います。

◆医学博士の斎藤茂太氏の著書「笑うとなぜいいか？」の前書きに、元気があから笑うのではなく、笑うから元気になる、と書かれています。そして本書の

最後には、上手に「笑い」と付き合えば、人間力も免疫力も確実にアップし、「笑い」は人生の特効薬であり万能薬なのだ、で締められています。マスクをしない生活も戻りつつあり、笑顔に接する機会も増えました。たくさん笑顔をあふれ、皆様が幸せで健康に過ごせるような笑顔の輪を広げたいです。また、能登半島地震で被災された皆様に笑顔が戻るとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

◆3月議会では刈谷市の令和6年度予算の審議がなされます。皆様の税金の使い方を決める大事な議会ですので、ぜひとも傍聴にお越しください。(議会広報委員会)